小児薬物療法認定薬剤師制度『必須業務実績報告書』作成の手引き

小児薬物療法研修委員会

この手引きは、小児薬物療法認定薬剤師制度実施要領に定める、認定の更新のために提出する「必須業務実績報告書」の作成上の留意事項を示したものです。

●公益財団法人日本薬剤師研修センターホームページより「必須業務実績報告書」様式をダウンロードして用いてください。
●記載にあたっては「本作成の手引き」のほか、同ホームページに記載例として掲載されている「必須業務実績報告書記載例１～４」を参考にしてください。
●10.5pt の文字で本文 1000 文字以上記載してください。但し、表題や記載上の注意等は文字数に含みません。また２枚以内に収めるよう作成してください。
●介入継続中の事例であっても、報告時点できちんと考察がなされていれば評価の対象となりますが、同内容の続報は評価の対象とは認められません。
●過去に報告した必須業務実績報告と同一の内容または著しく類似した内容は評価の対象とされません。
●評価の対象となるのは原則 15 歳未満の症例です。なお、15 歳以上の症例でも成人期への移行などで小児薬物療法に係る症例であれば評価の対象とすることもありますが、評価の対象とするか否かの判断は評価員が行います。
●妊婦・授乳婦への介入症例は原則評価の対象とされません。
●様式は勤務先（病院や薬局）、特定の疾患等に関わらず、すべての更新のための単位を申請する者に共通の様式です。患者およびその家族等の抱える（あるいは予見される）問題点に対して小児薬物療法に関する専門的知識を修得した薬剤師として、薬学的ケアの観点からどのように関わり、改善されたか、あるいは有害事象等の発生を未然に防ぐことができたか、などを簡潔に記入してください。
●薬剤師が医師、看護師、その他医療関連職種に対して行った薬学的助言や提案によって、医療の内容に二次的な効果や改善が得られた場合も事例として認められます。
●ただし、薬剤の選択や投与量調節、ケアなどへの介入では、科学的根拠に基づいた具体的な提案が必須であり、科学的根拠が記載されていない事例、単に経験則に基づいた提案や最終的な適否の判断を医師や看護師などにゆだねるよ

うな事例は認められません。「医師に判断を仰いだ」、「医師に提案した」、「症状に合わせて服用するよう指導した」のみの記載は不十分とみなします。

●使用薬剤の妥当性や、用法・用量が児にとって適切であるかを、年齢および体重などから評価して記載してください。

●最終的に報告書に必要な記載が網羅されているかを「必須業務実績報告書提出時の書類及び記載事項自己チェックリスト」を用いて確認してください。

なお、ご報告いただいた事例は、個人の特定が不可能な形式に加工の上、薬剤師による小児に対する薬物療法への貢献実績を示す資料として行政などへの報告として活用させていただく場合があることをご承知おきください。

＜各項目の記載上の留意点について＞

Ⅰ．冒頭の必須事項の記載上の留意点

１．介入開始時期と介入終了時期

●具体的な薬学的介入内容と矛盾しないよう記載してください。

２．介入終了年月日が該当する認定年と当該報告の当該認定年の報数

●当該認定を取得した期間中（更新した場合はその期間中）の合計の報告数を記載してください。

３．表題

●現に実施された薬学的介入の内容を反映した適切な文言を記載してください。

Ⅱ．各項目の記載に関する留意点

１．対象患者背景

●年齢：当該事例の介入開始時の患者の年齢：新生児・乳幼児では生後何日、何週、何歳何ヵ月、適切な単位を判断して記載

●性別：男性／女性の別を記載

●体重：実測体重あるいは聞き取り体重を記載

●処方薬・処方の評価・介入前の治療経過

・治療経過（必要に応じ前治療歴を含む。）、合併症（併用薬を含め併用している治療）等を簡潔かつ把握できるように記載してください。

・報告事例の対象となる治療法のレジメンや治療に用いられた医薬品等の名称が一般的なものは略名等の使用を可とします。・薬剤名、用法・用量等の処方内容を記載してください。

・薬物治療に関する記載、検討がない報告は「小児薬物療法認定薬剤師制度」の評価対象となりません。

２．具体的な薬学的介入の内容

●介入すべきと考えた理由

・介入前の状況（前治療歴を含む治療経過と患者等の状況、問題点等）を記載してください。

・今後の症状発現や悪化などの予想された問題点を記載してください。

・なお、この場合の医学的根拠としては文献的考察（引用を記載）のほか、これまでの経験的エピソードや当該症例の過去のイベントなどによるものなども可としますが、科学的根拠を提示してください。

●介入開始後の経過

・介入の具体的な内容の根拠とした情報を記載してください。

・この場合の医学的根拠としては可能な限り科学的な根拠（文献的な考察に加え、経験則等を裏付ける）であることが望まれます。

・バイオマーカーを含む検査値等の数量的推移やバイタルサインを根拠とした場合は、その具体的な数値を記載してください。

・医薬品に関する指導・提案の内容は、薬剤名称、剤形、用法・用量、投与経路がわかるように記載してください。

●介入後の効果（結果）

・介入により当初の問題点に対して想定通りの結果が得られたか否か、具体的な変化を記載してください。

３．この事例に関する考察

●感想を記載する項目ではありません。当該症例の治療経過等を踏まえた、薬学的管理の総合的評価を記載してください。

●処方薬剤、投与量、投与方法などが適切であったかどうか、適切に介入できたかどうか、年齢や体重、生活習慣等を加味して薬学的管理の観点から考察を行ってください。

●薬学的評価を行う際は文献等を参照し、それらを参考文献として文末に記載してください。

平成 26 年 11 月 20 日 作成
平成 27 年 5 月 20 日 一部追加（成人・妊婦・授乳婦）
平成 31 年 3 月 15 日 一部追加（「Ⅱ」の「１」の「年齢」）
平成 31 年 4 月 1 日 一部追加（評価対象とする症例の具体的年齢を規定）